

香芝市総合公園整備基本構想

目次

1. 計画地の概要.....	1
1. 1. 基本的事項.....	1
1. 2. 計画区域.....	1
1. 3. 立地.....	1
1. 4. 自然的条件、社会的条件.....	2
1. 5. 公園に関する市民アンケート結果.....	2
1. 6. 現況、課題と検討の方向性.....	3
2. 整備コンセプト.....	5
2. 1. 基本理念、基本方針、テーマ.....	5
2. 2. 導入機能.....	6
2. 3. 導入施設.....	7
2. 4. 土地利用ゾーニング.....	8
2. 5. 土地利用構想図.....	10
2. 6. 整備パターンと比較検討.....	12
2. 7. 基本構想図.....	13
3. 参考資料.....	17

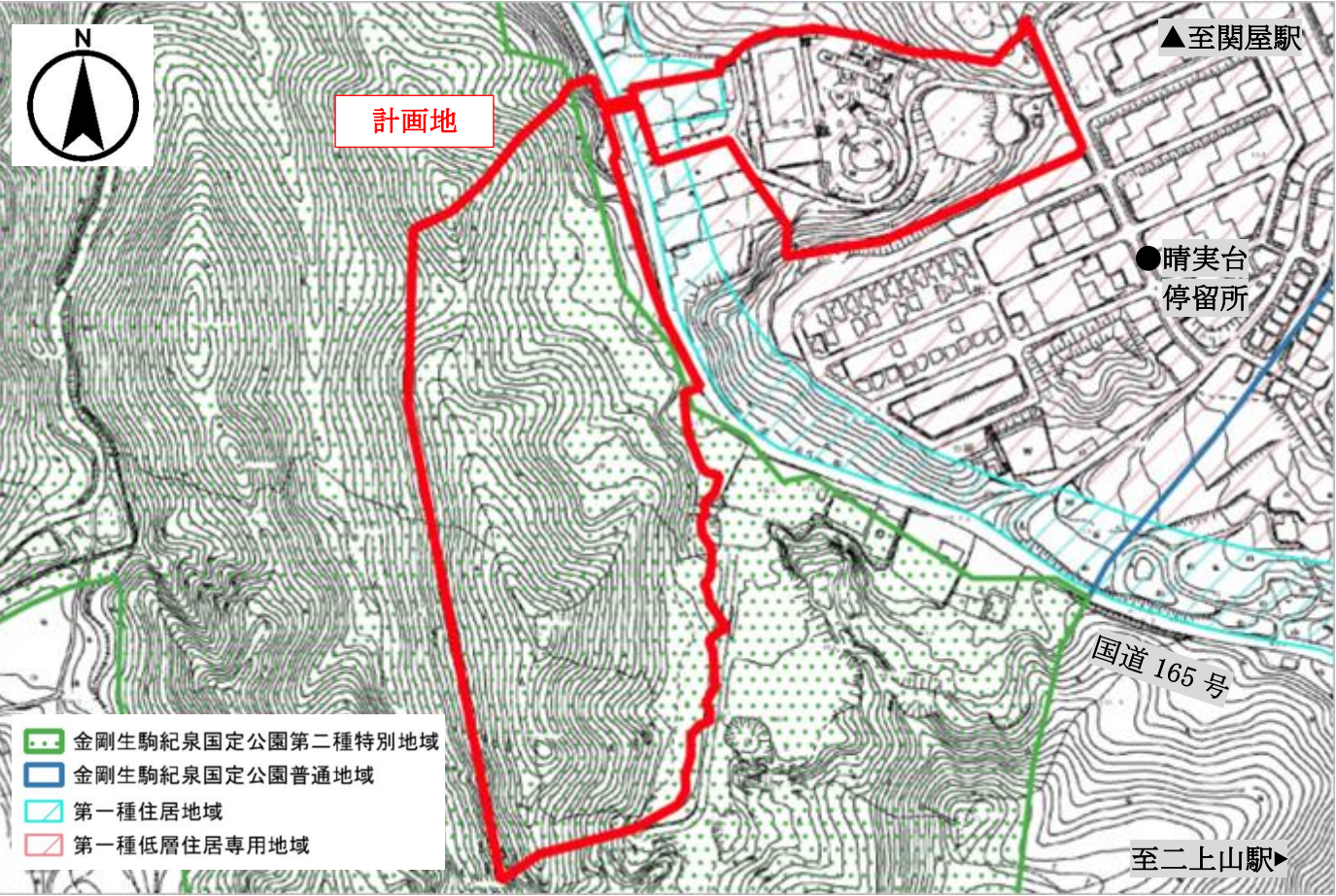
令和7年3月

1. 計画地の概要

1. 1. 基本的事項

名称	かしばし そうごうこうえん 香芝市総合公園
所在地	香芝市穴虫
公園種別	総合公園
面積	都市計画決定区域 面積:約10.9ha (東側2.9ha 西側7.9ha 陸橋0.1ha)
整備経過	昭和54(1979)年 都市計画決定
	昭和55(1980)年 事業認可
	昭和59(1984)年 東側のプール施設(50mプール)供用開始
	昭和60(1985)年 東側のプール施設(流水プール、すべり台プール) 供用開始
	令和2(2020)年以降 施設の老朽化に伴い休園
主要アクセス	国道165号沿いに位置する。
	最寄り駅:近鉄大阪線関屋駅、近鉄南大阪線二上山駅、 コミュニティバス晴実台 ^{はるみだい} 停留所
近隣資源	金剛生駒紀泉国定公園
	奈良県指定天然記念物どんづる峯(以下「どんづる峯」という。)に隣接する。

1. 2. 計画区域



資料：香芝市地形図データより作成

1. 3. 立地



計画地の立地特性

- ◆奈良県の北西部、大阪府との境に位置しており、本市の中心市街地からは離れた場所にある。
- ◆鉄道の最寄り駅からは離れているが、国道165号沿いにあるため、車でのアクセスに適している。
- ◆計画地の西側エリアは、金剛生駒紀泉国定公園第二種特別地域に含まれており、近畿自然歩道が通っている。
- ◆計画地の西側エリアに隣接するどんづる峯には、ダイヤモンドトレールの起点がある。
- ◆まちと自然との結節点に当たる。

1. 計画地の概要

1. 4. 自然的条件、社会的条件

■自然的条件

地 形	香芝市は、西部を中心に山林等の豊かな自然が広がっており、東部の平野部に市街地が形成されている。地形としては、金剛生駒山系の山々の山裾に広がっており、西側が山地及び丘陵部、東側が平坦部となっている。 計画地については、香芝市の西側、どんづる峯に隣接する丘陵地であり、国道165号により東側エリアと西側エリアに分かれている。
植 生	計画地及び周辺の植生は、アベマキ・コナラ群集が大半を占めており、一部にモチツツジ・アカマツ群集が見られる。
文 化 財	奈良県指定天然記念物どんづる峯
	二上山が噴火した際に、多量に降った火山灰や火山弾が麓の湖に堆積し、その後の地殻変動により隆起して、雨、風等の自然作用で浸食されてできた白色凝灰岩の地層が露出したもの
	地下壕（文化財指定なし）
	計画地内1か所、計画地外1か所に太平洋戦争中に軍事用に掘られた地下壕がある。
	そのほか
	計画地外の穴虫地内には、太子道の地藏摩崖仏、万葉歌碑などがある。
自然歩道	どんづる峯入口には、金剛葛城山系の稜線を結ぶ全長約4.5kmの長距離自然歩道「ダイヤモンドトレール」の起点がある。計画地内には「近畿自然歩道」も通る。

■社会的条件

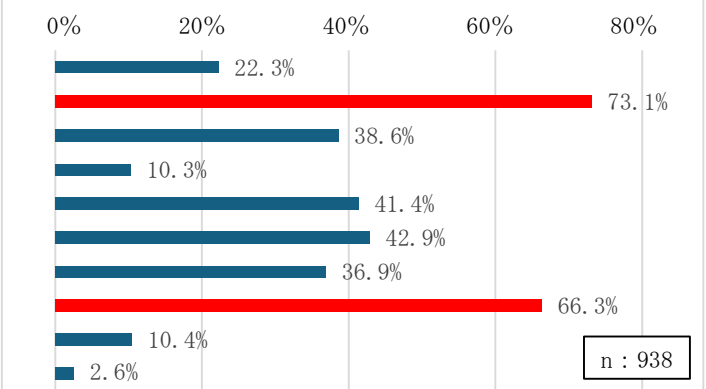
人 口	香芝市の人口は、78,380人（令和6（2024）年7月末日）であり、奈良県下の市町村では、65歳以上の高齢者人口割合が最も低く、15歳から64歳までの生産年齢人口割合が最も高い。 令和2（2020）年頃から総人口が減少に転じており、徐々に少子高齢化の進行と生産年齢人口の減少が予想されている。
交 通	【道路】計画地は国道165号沿いにある。国土交通省により、国道165号香芝柏原改良事業として、拡幅4車線化とする事業が進められている。 【鉄道】近鉄大阪線関屋駅から徒歩約22分、近鉄南大阪線二上山駅から徒歩約36分である。 【バス】コミュニティバス 祇園荘ルート「晴実台」停留所

1. 5. 公園に関する市民アンケート結果

資料：香芝市の「みどり」と「公園」に関する市民アンケート調査概要 令和3（2021）年

今後、香芝市総合公園の全体整備を予定しています。どのような場所になると良いと思いますか。
[当てはまるもの全て]

選択肢	件数
1.隣接する屯鶴峯の魅力を活かした場	209
2.子どもが安心して遊べる場	686
3.アスレチックやジップラインなどで遊べる場	362
4.プール跡地で釣りができる場	97
5.ピクニックやBBQができる場	388
6.カフェなどの飲食施設がある場	402
7.自然・環境が学べる場	346
8.散策できるなど健康に寄与する場	622
9.その他	98
無回答	24



みどりや公園を活用して、魅力と活力あるまちづくりを進めるために、特に優先すべきと考える取組をお答えください。[当てはまるもの全て]

「遊歩道やハイキングコースを充実させる」が55.7%と最も多く、次いで「香芝市総合公園」「香芝市スポーツ公園」など、大きなレクリエーション空間を充実させる」42.1%、「街路や川沿いを緑化する（街路樹の整備、川沿いの緑道化など）」39.8%となっている。

香芝市のみどりのまちづくりについてお伺いします。
今後参加したいみどりのまちづくりの活動やイベント

「花いっぱい運動など町の緑化」への参加が22.7%と最も多く、次いで、「公園のごみ拾いや花植え」18.9%、「子どもに自然との遊び方を教える」17.5%となっている。

○公園に関する主な意見

◇子どもが遊べる公園について

- ・子どもが遊べる公園がほしい
- ・小さい子どもが安全に遊べる公園がほしい

◇公園管理について

- ・草木の手入れ、倒木や害虫などの対策をしてほしい
- ・トイレが汚い、怖いので改装してほしい
- ・新設するよりも既存の公園の管理や整備をしてほしい

◇遊具について

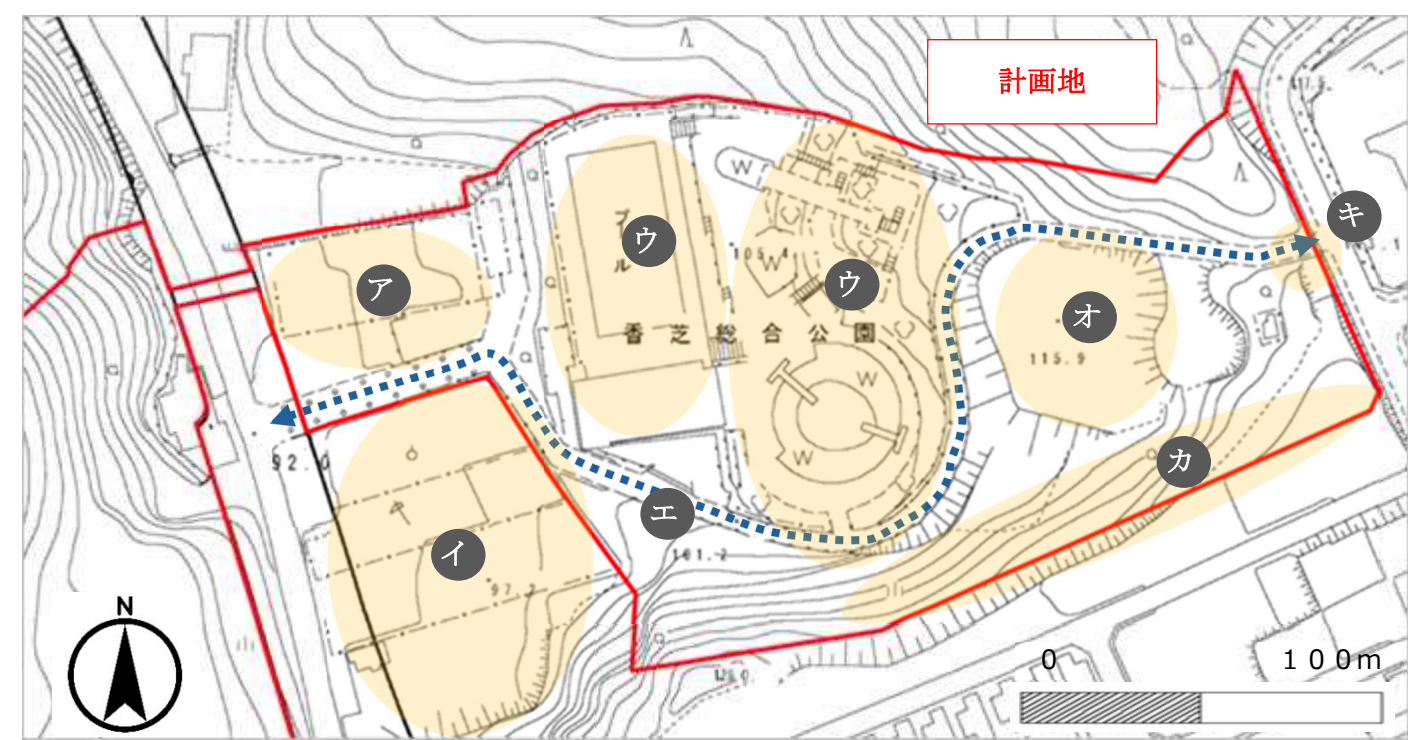
- ・老朽化した遊具は危険なため修繕してほしい
- ・遊具の数を増やしてほしい
- ・リハビリや大人が利用できる遊具がほしい

◇その他

- ・散歩や軽い運動ができる公園がほしい
- ・ベンチや日避けの屋根等、休憩所がほしい
- ・ペットが入ってもよい公園をつくってほしい
- ・ボール遊びができる公園の整備をしてほしい
- ・みどりや花のある公園がほしい
- ・様々な年代が利用できる公園がほしい
- ・特色や目的を持った公園にしてほしい など

1. 計画地の概要

1. 6. 現況、課題と検討の方向性
(1) 現況、課題と検討の方向性（東側エリア）

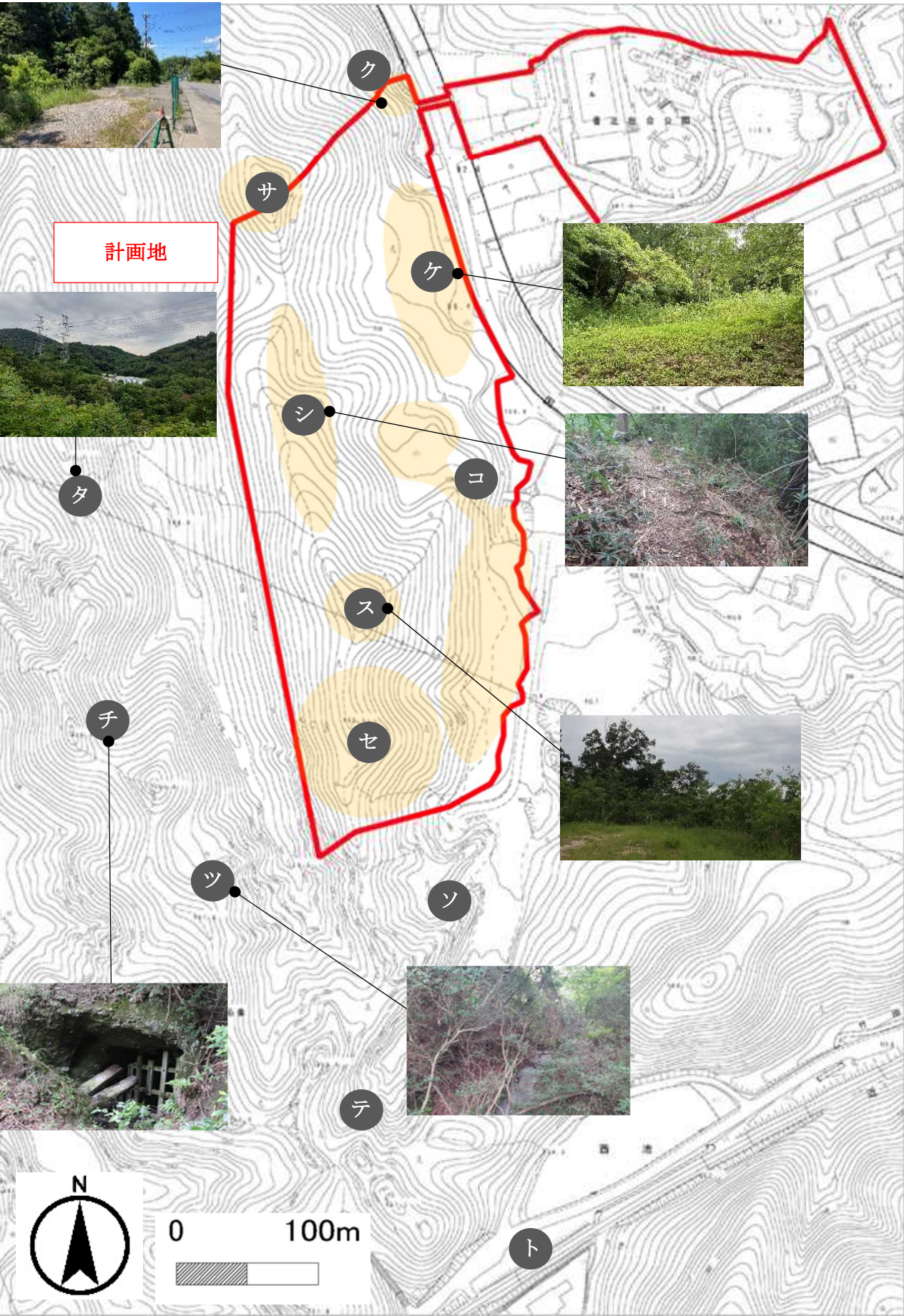


■現況 ◇課題 □検討の方向性	
ア. 旧エントランス、旧駐車場	
	■東側エリア西入口の両側には樹木の列植と低木帯がある。 ■東側エリア西入口から入れるプール前駐車場（駐輪場）となっている。 ■国道165号沿いにあり、アクセスが良く、道路からの視認性が高い。 ◇今後も公園のメインエントランスや駐車場となるべき場所だが、一部が道路改良事業の用地として予定されており、接道条件等が大きく変化する見込み。 □東側エリアと西側エリアをつなぐ歩車道や駐車場等の用地として活用するため、国道165号香芝柏原改良事業や高架橋の新設に合わせて詳細に検討する必要がある。 □国道165号からのアクセスや視認性を生かした広場を整備する。
イ. 旧エントランス隣接地（国道165号沿い）	
	■旧エントランスの南側に隣接する民有地で、現在はブドウ園や建設資機材置場として利用されている。 ◇一部が道路改良事業の用地として予定されており、旧エントランスと同様に接道条件等が大きく変化する見込み。 □民有地の土地利用転換が予想されるため、計画地との境界の処理や、メインエントランスの改良等について柔軟に検討する必要がある。 □計画地を拡大することで公園駐車場や集客便益施設などの設置も検討できる。

■現況 ◇課題 □検討の方向性	
ウ. プール跡地	
	■流水プール付近は東側エリア西入口付近よりも約13m高い位置にある。上下（流水プールと50mプール）の間にも3mの高低差があり、また山際のウォータースライダー付近にも6.5mの高低差がある。 ◇駐車場との高低差が大きく（約6m）東側エリア東入口への誘導が課題 ◇植栽帯により空間が細かく分かれている。 □上下段を造成して一体的に広場とすることを念頭に、その周囲の傾斜地もできるだけ緩やかに擦り付けることで、引き続き、公園の拠点、シンボル施設（施設用地）とするよう検討する必要がある。
エ. 東側公園内主園路	
	■東側エリア東入口から晴実台側に抜ける幅約3～4mの園路があり、車両の通行が可能である。 ■プール跡地周辺はフェンス、崖側は擁壁が続く。 ◇バリアフリー（歩車分離、手すり等）非対応 □道路地下に上下水道、電気等が通っていると思われ、工事には注意が必要 □管理用車両通路には、ほぼ現状のままの園路が有効 □プール跡地の整備と合わせて、必要なバリアフリー園路の確保方法を検討する必要がある。
オ. 広場	
	■最上部に小規模広場（約500㎡）、下段に中規模広場（約1,500㎡） ■各広場の高低差がある。 ■樹木により見通しが悪い。 ■晴実台側からのアクセスが良い。 ◇2面の広場の高低差が2m程度ある。 ◇プール跡地と空間が分散されている。 ◇小規模広場は間口が狭く、奥まった形状であり死角が多い。 □2m程度の高低差は、適切に造成することで一体化が可能となる。 □プール跡地に続くサブ拠点として施設整備を検討する必要がある。 □樹木の剪定、伐採により、晴実台側から芝生広場への見通しが可能となる。
カ. 周辺の住宅地との間の斜面	
	■周辺の住宅地との間の斜面は、既存樹木にクズなどが多く絡まり雑然とした状況である。 ■住宅地沿いにあり、住宅地側からの視認性が高い。 ◇雑木、クズが繁茂しており、美観上の課題がある。 ◇住宅地と接しており配慮が必要 □園内からの眺望や美観と、住宅地と境界性を両立させた植物管理を検討する必要がある。
キ. 東側エリア東入口（晴実台側）	
	■住宅地である晴実台側からの唯一の東側エリア東入口 ■最寄り駅である関屋駅から最も近い入口である。 ◇現況では開口部が狭く、回転の余地等もない。 □晴実台や関屋駅方面からの歩行者導入口として、開放感を高めた整備を検討する必要がある。 □隣接する広場部の整備と合わせて、管理用やバリアフリー対応の小駐車場整備も検討する必要がある。

1. 計画地の概要

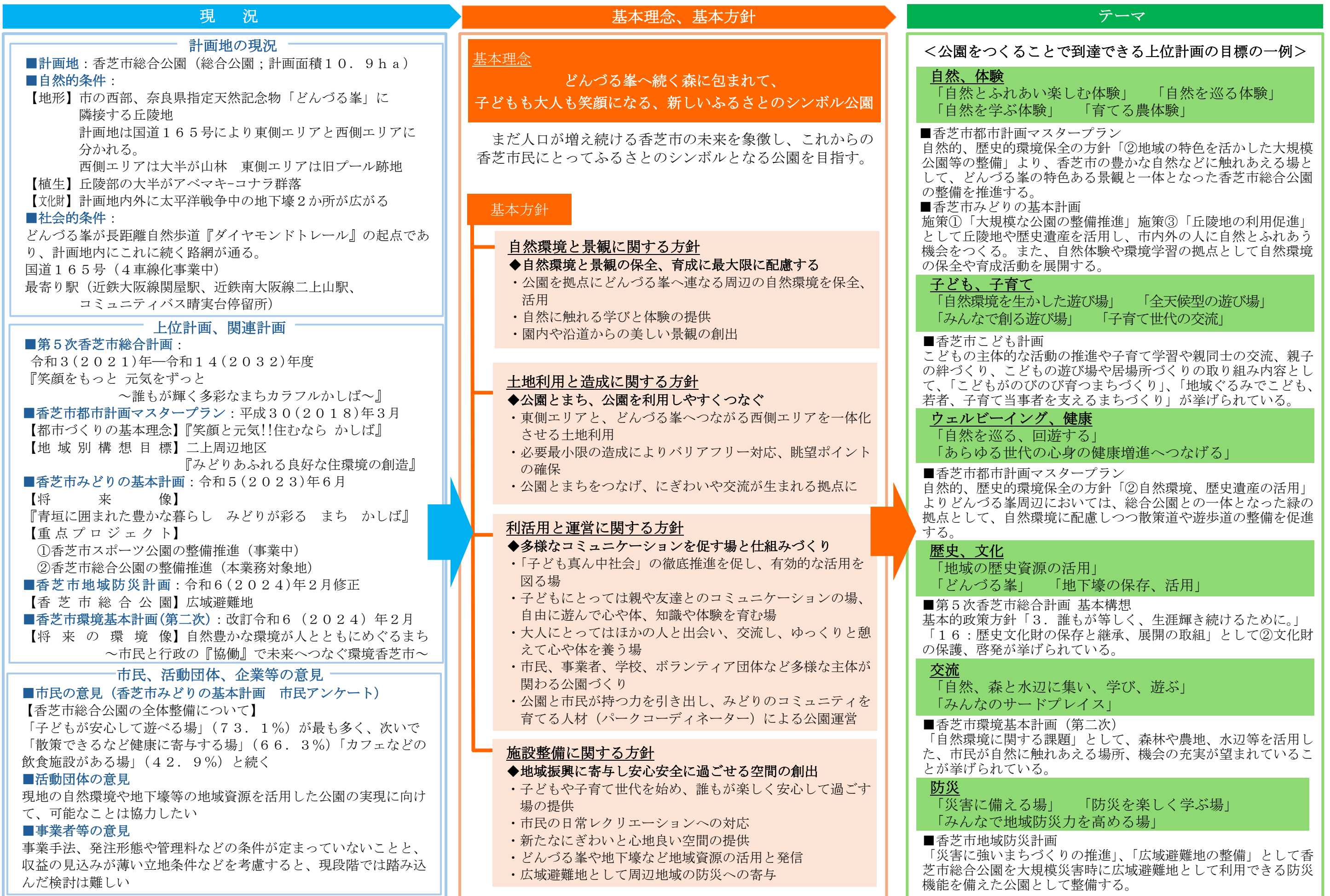
(2) 現況、課題と検討の方向性（西側エリア）



■現況 ◇課題 □検討の方向性	
ク. 西側エリア東入口上部の平場 ■西側エリア東入口上部の広場から東峰山頂に向かう登山口となっている。 ■国道165号香芝柏原改良事業の区域に含まれる。 ◇付近に土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域がある。 □どんづる峯方面への登山口として今後も重要 □国道165号により東エリアと西エリアに分かれているため、この付近の道路や公園への進入路の構造等について、詳細な検討が必要 □西側エリア東入口上部の広場を経てどんづる峯方面へ向かう登山口として活用するため、国道165号香芝柏原改良事業と合わせて詳細な検討が必要	ソ. どんづる峯 □奈良県指定天然記念物であり、階段や柵を備えた遊歩道整備には制限があるため、ハイキング道としてどのような安全性向上を図るかの検討する必要がある。
ケ. 国道165号沿いの平場 ■平坦地があるが、樹木に囲まれ見通しが悪い。 ■自然地形に配慮した基盤造成としている。 ◇付近に土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域がある。 ◇西側エリア東入口上部の広場からは全方向眺望不可 ◇既存徒歩動線から他の平場への接続がない。 ◇西側エリア東入口から急斜面で狭い歩道を登ることとなる。 ◇湿気が多いため、周辺の水の流れに注意が必要	タ. 計画地外：西側エリア西峰平場 ■送電鉄塔の周りに、周囲への見晴らしがよい若干の平坦地がある。 ◇西峰山頂からは、樹木により全方向眺望不可 □小規模の見晴らし園地として整備が可能（計画地外）。
コ. 遊歩道に隣接した平場 ■既存の遊歩道と近接している。 ■どんづる峯に近く、地下壕に隣接 □地下壕との接続を考慮する。 □隣接する事業地付近にあるため配慮する必要がある。 □平場部分の活用方法の検討	チ. 計画地外：地下壕 ◇地下壕出入口がいくつか開口しているが、周囲に平坦地は少なく、足場の悪い急斜面が多い。 ◇草木が生い茂っている箇所が多く、頭上も注意しながら歩かなければいけない。 □開口部のうち、周囲に平坦地がある場所は見学ポイントや解説板等の設置が可能（計画地外）。
サ. 西側エリア北の平場 ■尾根頂部付近に小規模な平坦地がある。 □遊歩道上の休憩ポイントとして小広場を整備可能	ツ. 計画地外：地下壕に通じる歩道 ■地下壕に至る遊歩道は足場が悪く、未整備部分がほとんどである。 ◇生い茂った草木により通行不能箇所が多数ある。 ◇地下壕に至る遊歩道は簡略なものであり、草木により通行不能箇所が多数あり。園路整備が必須 □計画地内外の遊歩道の接続の検討が必要
シ. 東峰に通じる歩道 ■道幅は狭いものの、道筋が分かりやすく、歩きやすい。 □西側エリア東入口上部の広場から東峰山頂までのルートは、園内ハイキング道の主幹線として整備が可能。	テ. 計画地外：どんづる峯眺望スポット ■眺望スポットまでは遊歩道が整備されている（枕木使用）。 □奈良県指定天然記念物であり「遊歩道」としての整備は難しいため、ハイキング道としての安全性向上を図るために検討する必要がある。
ス. 西側エリア東峰平場 ■送電鉄塔の周りに、周囲への見晴らしがよい広い平坦地がある。 □東峰山頂付近は、本来は二上山方向等への眺望に優れる見込み。周囲の樹木を伐採することで見晴らし園地の整備が可能。	ト. 計画地外：どんづる峯 大阪府道703号香芝太子線沿い駐車場 ■どんづる峯入口付近にバリアフリー対応トイレ5台分の駐車場がある。この先、どんづる峯のエリア内にトイレはない。近畿自然歩道の案内板がある。 ■どんづる峯側への横断歩道はない（緑舗装の横断帯のみ）。 ◇乗用車は5台駐車可能だが、バスなどの大型車両は対応していない。
セ. 地下壕周辺 ■戦時中に掘られた地下壕がある。 ■東峰山頂から地下壕へ向かう安全な遊歩道がある。 ◇安全性検証と安全性確保の対策が必要	

2. 整備コンセプト

2. 1. 基本理念、基本方針、テーマ



2. 整備コンセプト

2. 2. 導入機能

テーマ	導入機能	空間、施設イメージ例		
自然、体験 豊かな自然環境を もっと楽しみ もっと好きになる 自然と豊かに暮らす	■自然と触れあい楽しむ体験 〉アウトドア、野外体験 〉多様なアウトドアアクティビティ ・フィールドアスレチック ・ツリーイング ・アスレチック ・バーベキュー ■自然を巡る体験 〉トレッキング、ハイキング ・ダイヤモンドトレールと連携 ・近畿自然歩道 ・トレッキング支援 (休憩、情報交換、案内、販売) ■自然を学ぶ体験 ・自然観察 ■育てる農体験 ・アーバンファーマーミング	●キャンプ、バーベキュー広場 ●ピクニック芝生広場 ●冒険の森(アスレチック施設) ●木登りの森(ツリーイング) ●拠点施設 (トレッキングステーション) ・休憩 ・トイレ ・案内、情報共有機能 ・グッズ販売 ●水辺空間 ●コミュニティ農園 ●レンタル農園 ●明るい森づくり ・現況林の間伐等手入れ	 資料：花博記念公園鶴見緑地HP	 資料：兵庫県立甲山森林公園HP
子ども、子育て いつでも遊べる のびのび、いろいろ遊べる 創造的に遊べる	■自然環境を活かした遊び場 ・フィールドアスレチック ・自然の道具での遊び ■全天候型の遊び場 ・屋内での遊び(室内遊具、工作等) ■子育て世代の交流 ・親同士の情報交換や子育てサポート ■みんなで創る遊び場	●複合遊具 ●木製フィールドアスレチック ●子育て複合施設 ・屋内遊び場 ・カフェなどの飲食施設 ・子育て支援スペース	 資料：船橋市HP	 資料：神戸市HP
ウェルビーイング、健康 自然の中で 健康にそして幸せに	■自然を巡る、回遊する ・歩く、ジョギング、ハイキング ■あらゆる世代の心身の健康増進へつなげる ・ヨガ、ストレッチ、モルック等 ・森林浴、ハンモック、ピクニック等	●散策回遊園路 ●トレッキング、ハイキングルート ●芝生広場 ●レクリエーションイベントスペース ●健康遊具 ●休憩施設 ・ベンチ		
歴史、文化 どんづる峯、 戦争遺跡「地下壕」を 守り、生かし、次世代につなぐ	■地域の歴史資源の活用 ■どんづる峯 ■地下壕の保存、活用 ・歴史文化財の保存と継承 ・地域資源の活用 ・地域の自然－歴史と触れあうイベント開催及び情報発信	※保存、活用手法検討 ●どんづる峯、地下壕への園路整備 ●サイン整備、説明板の設置 ●眺望テラス、撮影スポット等	 資料：下市町HP	
交流 森に集い、学ぶ、遊ぶ みんなのサードプレイス	■自然・森と水辺に集い、学び、遊ぶ ■みんなのサードプレイス ・多世代の情報交換、交流の場 ・シェアオフィス、コワーキングスペース、シェアキッチン ・地域住民による季節の花壇 ・カフェ、親子カフェ ・イベント、マーケット	●子育て交流拠点施設 ・全天候型遊び場 ・交流スペース ・情報共有等子育て支援機能 ●大屋根広場 ●イベント、マーケット広場 ●コミュニティ花壇 ●ドッグラン	 資料：京都市交流促進まちづくりプラザHP	
防災 安全、安心を高める	■災害に備える場 ・避難訓練 ■防災を楽しく学ぶ場 ・防災キャンプ、防災クッキング等 ■みんなで地域防災力を高める場	●多目的広場(避難広場) ●防災トイレ ●備蓄倉庫	 資料：神戸市HP	

2. 整備コンセプト

2. 3. 導入施設

■自然を体験して学ぶエリア

西側エリアは、自然的、歴史的資源（どんづる峯や地下壕など）と、それを取り巻く自然環境を守り、生かしながら、新たなレクリエーションの場を創造する。

E アウトドア、自然体験ゾーン

豊かな自然環境を

もっと楽しみ、もっと好きになるゾーン

- 拠点施設（トレッキングステーション）
- キャンプ、バーベキュー広場
- 木製フィールドアスレチック遊具



資料：高取山ふれあい公園HP



資料：枚岡公園HP

F フィールドミュージアムゾーン

自然、歴史、文化を

現地で直接体験し、学習するゾーン

- どんづる峯、地下壕への遊歩道整備
- サイン整備、説明板の設置
- トイレ兼休憩施設



資料：神戸市HP

G 森の回遊ネットワークゾーン

森の中を楽しみ、守り育てていくゾーン

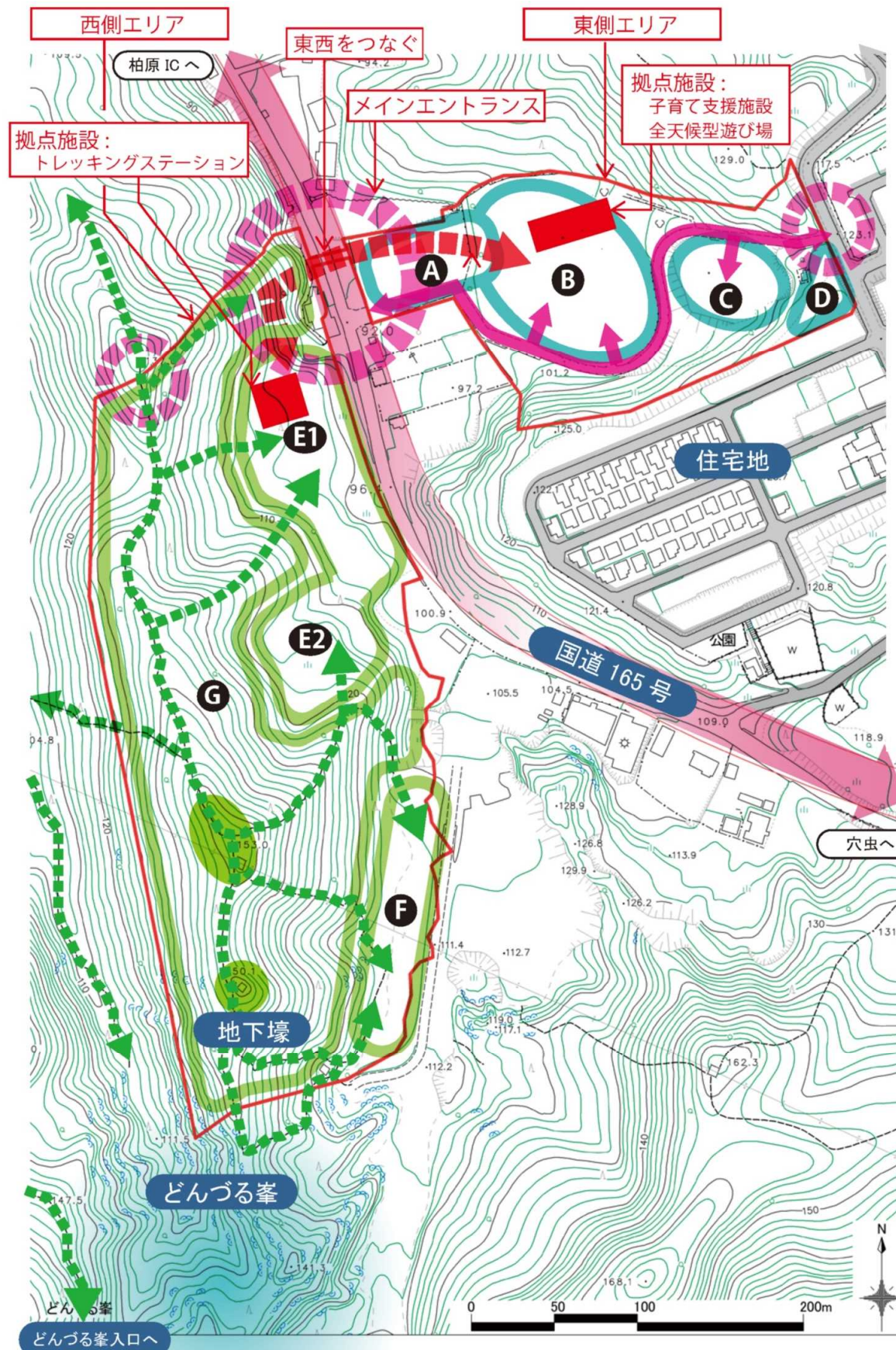
- トレッキング、ハイキングルート
- 眺望テラス、撮影スポット等
- 明るい森づくり（現況林の間伐等手入れ）



資料：箕面公園HP



資料：神戸市HP



■遊びと集いを楽しむにぎわいエリア

東側エリアは、市民の多様な活動や交流を促す魅力的な広場、拠点を構築する。

つなぐシンボリックゾーン

豊かな自然環境と

人のにぎわいをつなぐゾーン

- イベント、マーケット広場
- 駐車場



資料：東遊園地HP



資料：兵庫県立一庫公園HP

B 遊びと集いのゾーン

子どもたちの遊びとにぎわいを楽しむゾーン

- 子育て交流拠点施設（全天候型遊び場、交流スペース、情報共有等子育て支援機能）
- 芝生広場
- 大屋根広場
- 水辺空間
- トイレ兼休憩施設



資料：奈良市HP



資料：神戸市HP

C コミュニティゾーン

コミュニティの交流の場となるゾーン

- 複合遊具
- 健康遊具
- 休憩施設
- ドッグラン



資料：泉佐野市HP



資料：神戸市HP

D エントランスガーデンゾーン

まちと公園を結ぶ
おもてなしガーデンゾーン

- コミュニティ花壇
- 休憩施設

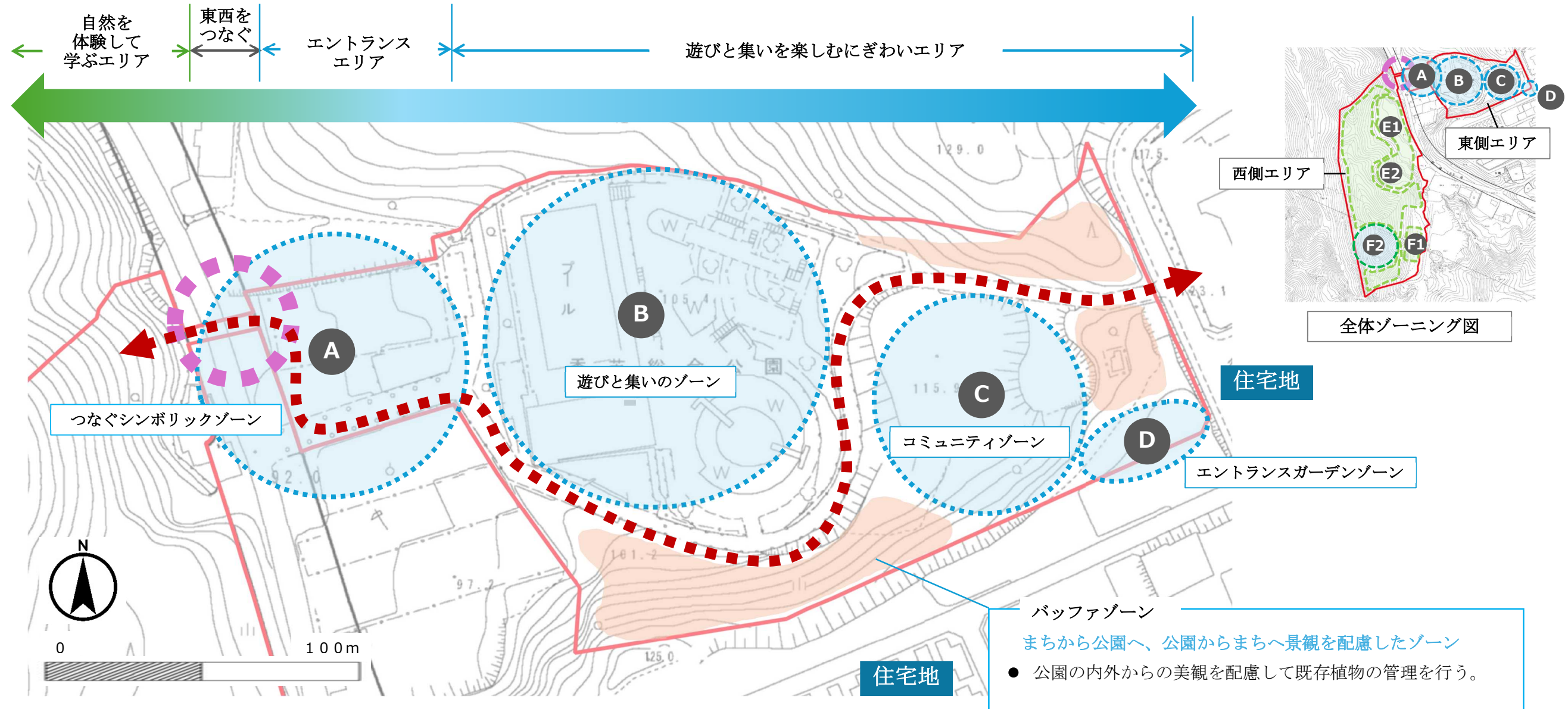


資料：奈良県HP

2. 整備コンセプト

2. 4. 土地利用ゾーニング

(1) 土地利用ゾーニング（東側エリア）



A

つながりシンボリックゾーン

豊かな自然環境と人のにぎわいをつなぐゾーン

- 快適に東西をつなぎ、香芝市総合公園の玄関口にふさわしいシンボリックな空間とする。
- 東西でつながることにより、人と森と公園のより活発な交流が生まれる空間
- 人の流れを誘導し、東西園地の持つ魅力を広げるキースペース
- 国道165号周辺部と公園の一体性向上

B

遊びと集いのゾーン

子どもたちの遊びとにぎわいを楽しむゾーン

- 来園者の多様な活動や交流を促す魅力的な空間
- 子どもたちが楽しく、のびやかに遊び、それを見守ることのできる空間
- 子どもや子育て世代による様々な形の利用を柔軟に受け止める施設空間
- SDGsの観点からできるだけ既存の施設を再利用し、新たな拠点として再構築する。

C

コミュニティゾーン

コミュニティの交流の場となるゾーン

- まちに近く、市民がより身近に使うことのできる多目的空間
- 来園者の活動や交流を促すためのフレキシブルな利用が可能な広場

D

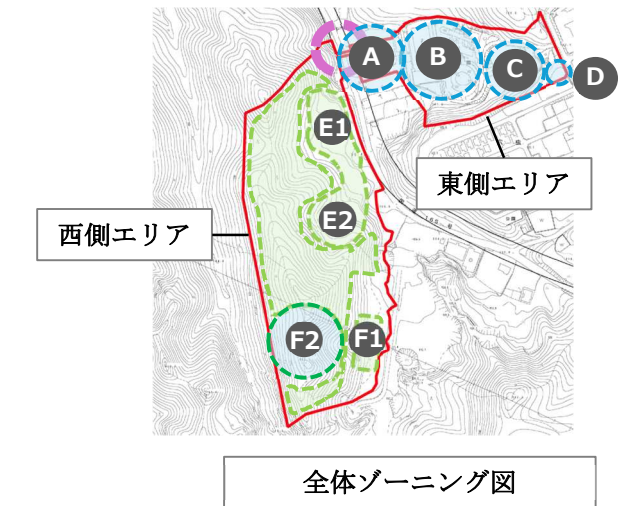
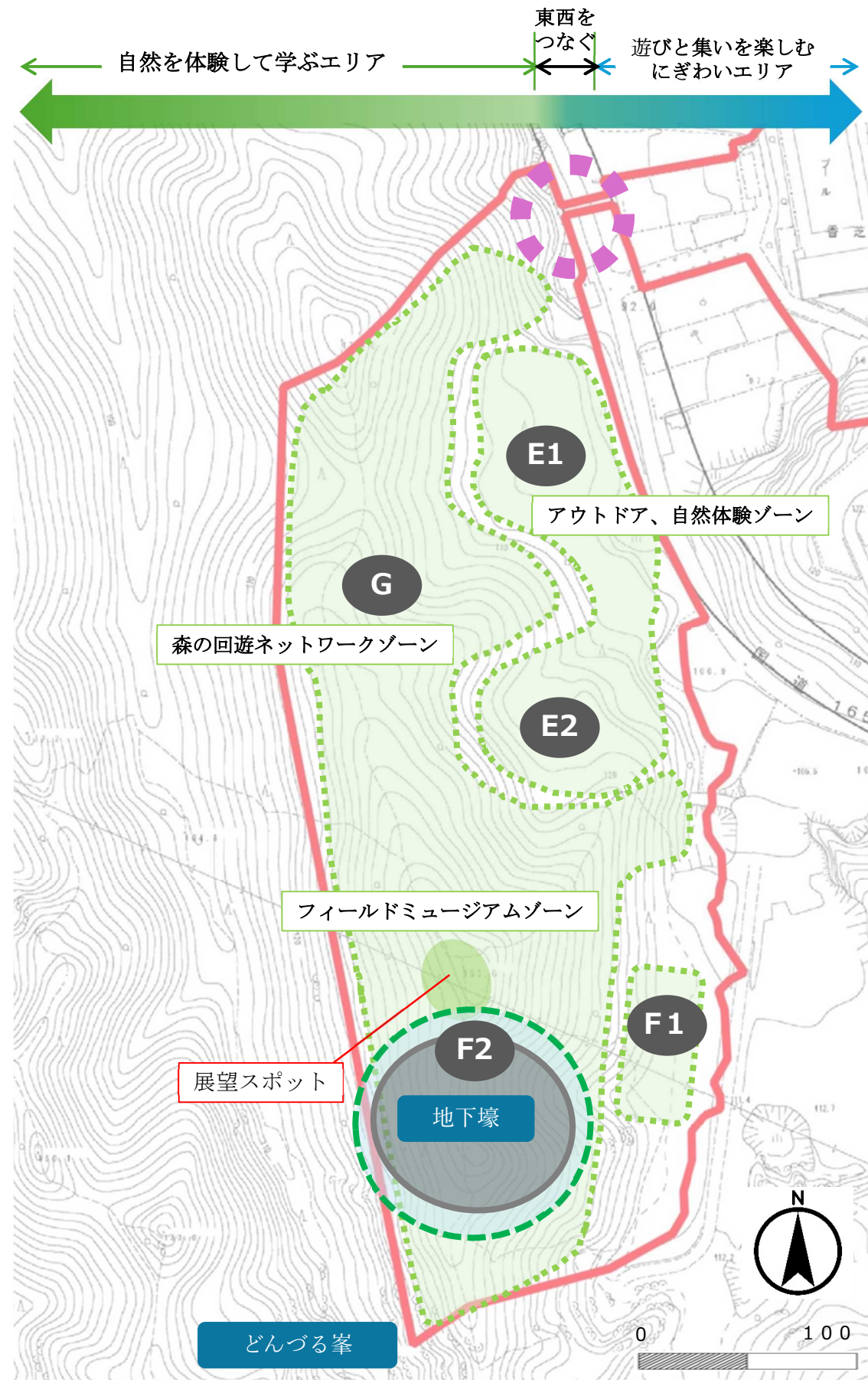
エントランスガーデンゾーン

まちと公園をむすぶおもてなしガーデンゾーン

- みどりあふれる公園へ誘う、明るく入りやすいおもてなしのガーデニング空間
- 市民による様々な活動や交流を通して、公園からまちへとつながる空間

2. 整備コンセプト

(2) 土地利用ゾーニング（西側エリア）



E アウトドア、自然体験ゾーン

E1 E2 豊かな自然環境をもっと楽しみ、もっと好きになるゾーン

- 森や自然を楽しむ人たちの入口となり、多様なプログラムに対応できる広場
- 子どもたちが体を動かしながら自然と触れあい、学び、体験する空間
- ダイヤモンドトレールの起点（玄関口）としての機能を持たせた空間
- 森を楽しむ市民の憩いの場所であり、様々なアクティビティを利用する方の休憩スペース

F フィールドミュージアムゾーン

F1 自然、歴史、文化を現地で直接体験し、学習するゾーン

- どんづる峯や地下壕など、香芝市の地域資源を学ぶ市民の入口となる広場空間（山道に不慣れな方や高齢者、子ども、障害を持つ方などが、地下壕やどんづる峯、展望スポットまでを比較的短い距離で移動することができるため、体に負担が少ない状態で観光や学習見学ができる）
- 香芝市の歴史や文化など新たな魅力を学び、体験してもらう空間（どんづる峯や地下壕への散策や見学をしてもらうための新たな整備を行う。）

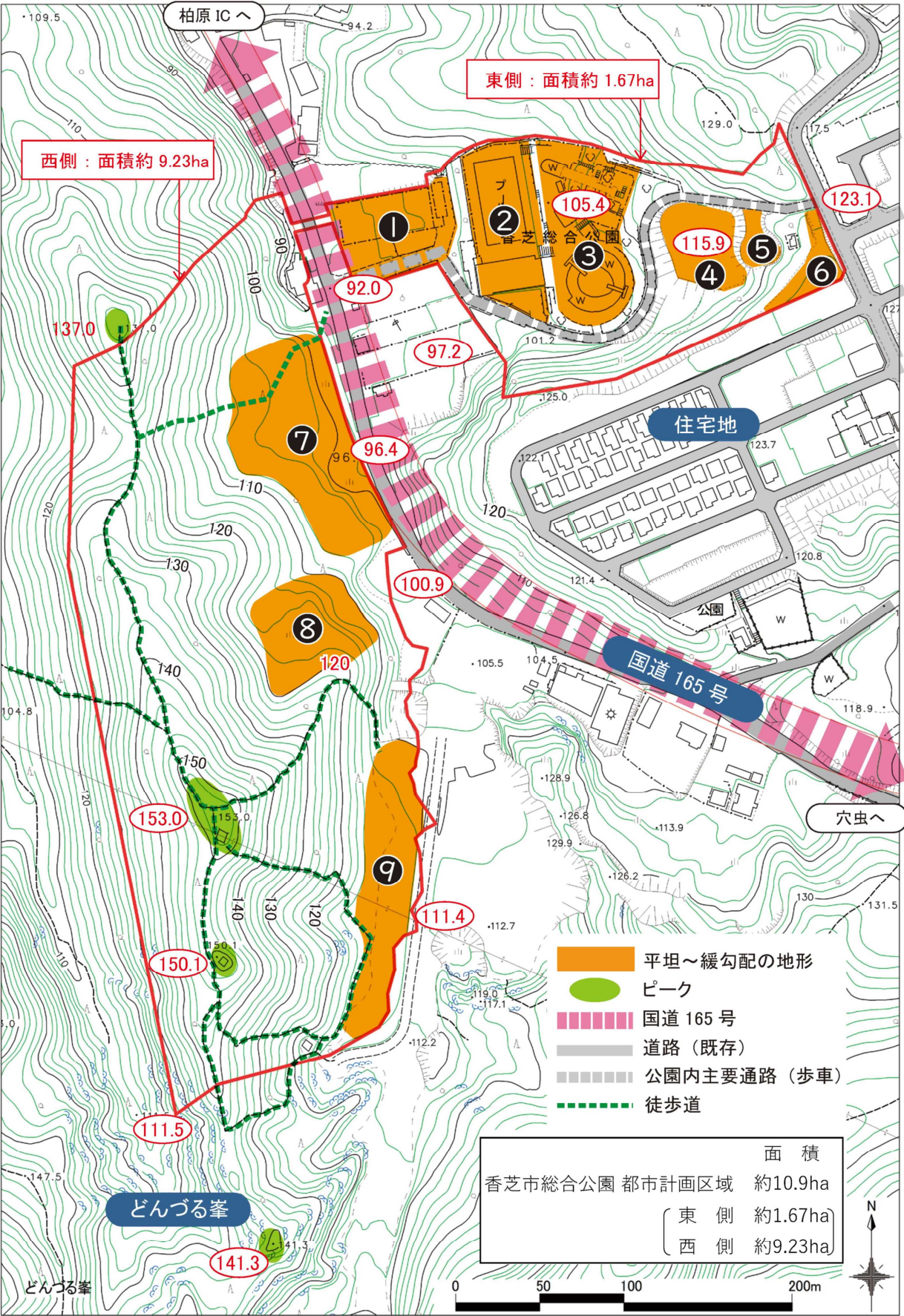
G 森の回遊ネットワークゾーン

森の中を楽しみ、守り育てていくゾーン

- 森全体を楽しむために、明るく過ごしやすい森の環境づくりを行う。
- 自然豊かな森を守るために適切な整備を行う。

2. 整備コンセプト

2. 5. 土地利用構想図
(1) 平面図 (広場構成)



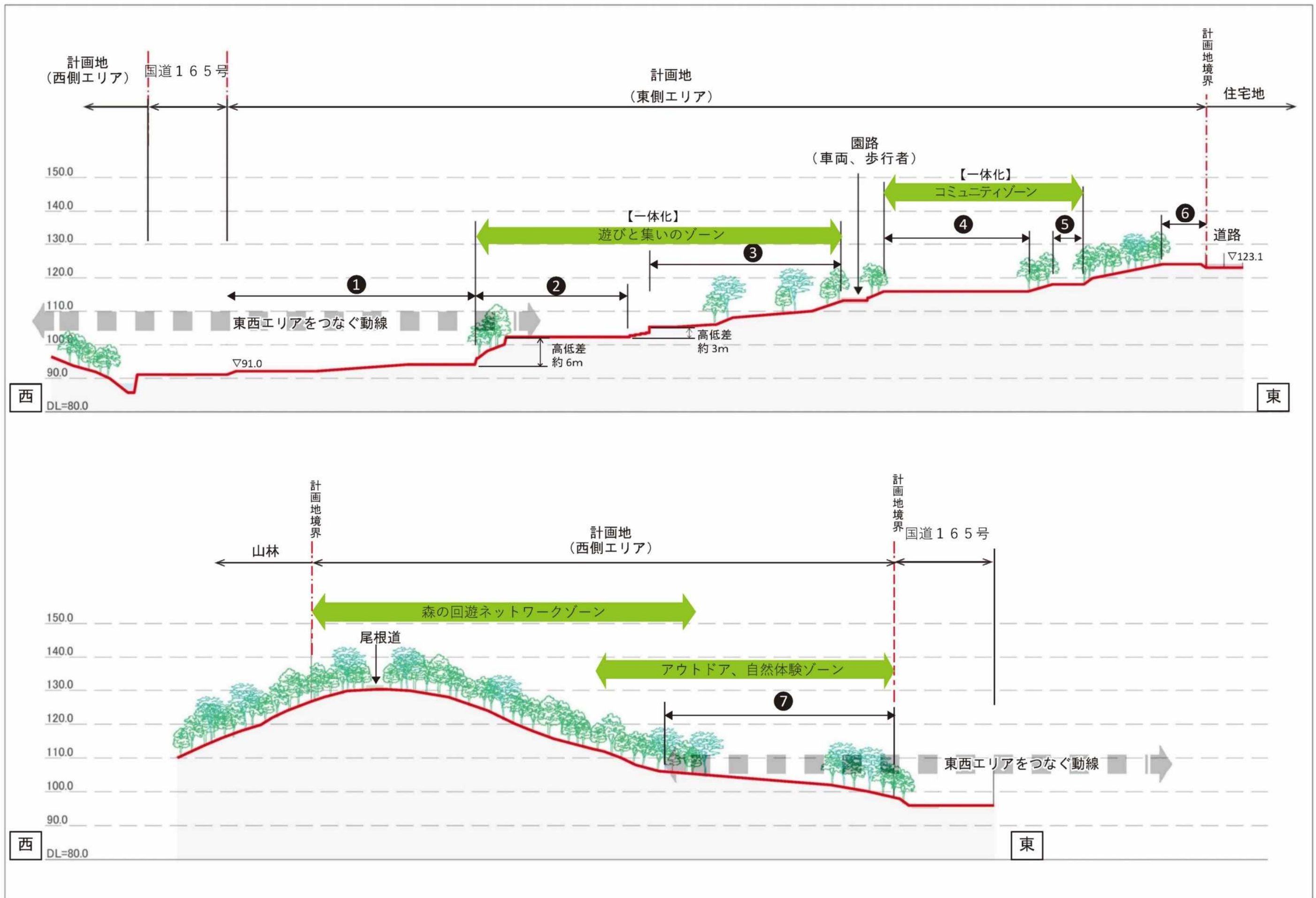
■広場構成の考え方

現況地形を生かして、市民の多様な活動の場となる広場を構築する。

	現況、ポテンシャル ◆印：ポテンシャル	課題	方向性
東側エリア	①【地形】おおむね平坦 【面積】約3,400㎡ 【現状】草地 ◆国道165号沿いにありアクセスが良く道路からの視認性が高い。	国道165号沿いの間口が狭い。 ②との高低差が大きく(約6m)、東側エリア東入口への誘導が課題	国道165号からのアクセスや視認性を生かして公園の顔、エントランスとなる広場を整備する。
	②【地形】平坦 【面積】約3,700㎡ 【現状】舗装(旧50mプール、管理棟) ◆公園(東側エリア)の中心に位置する。	③との高低差がある(約6m)。細長い形状	②と③を公園の中心に拠点、シンボルとなるのびやかな広場を整備する。
	③【地形】起伏があり、複雑な形状地形 【面積】約5,100㎡ 【現状】舗装(旧流水プール等) ◆公園(東側エリア)の中心に位置する。	植栽帯により空間が細かく分節されている。	
	④【地形】おおむね平坦、周囲が法面地形 【面積】約1,500㎡ 【現状】草地、周辺に樹林 ◆住宅地側からのアクセスが良い。	①②③と分断感がある。	④と⑤を地域住民に親しまれる空間とし、安全な広場を整備する。
	⑤【地形】おおむね平坦 【面積】約500㎡ 【現状】草地 ◆住宅地側からのアクセスが良い。	面積が小さい。間口が狭く、奥まった形状死角が多い。	
	⑥【地形】おおむね平坦 【面積】約900㎡ 【現状】草地 ◆住宅地沿いにあり、住宅地側からのアクセス、視認性が高い。	住宅地と接しており、配慮が必要	住宅地側の景観、美観を高める空間を整備する。
西側エリア	⑦【地形】緩傾斜地 【面積】約6,700㎡ 【現状】樹林、草本地 ◆国道165号沿いにあり、アクセス性が良く、道路からの視認性が高い。	既存徒歩動線の接続がない。自然地形に配慮した基盤造成が必要	⑦と⑧を一体的な空間とし自然環境を生かし市民が自然と親しむ拠点となる広場を整備する。周辺地形、樹木への影響を考慮する。
	⑧【地形】緩傾斜地 【面積】約3,400㎡ 【現状】樹林、草本地 ◆既存の徒歩道と近接している。	車両動線の接続に対して工夫や自然地形に配慮した基盤造成が必要	
	⑨【地形】おおむね平坦、細長い 【面積】約5,400㎡ 【現状】 ◆どんづる峯に近い。地下壕に隣接している。 ◆既存の徒歩道と接続している。	どんづる峯の眺望景観を保全する。地下壕への配慮が必要隣接する事業地付近にあるため、配慮が必要	どんづる峯や地下壕へ一番近い広場となるため、各拠点へアクセスしやすくなるための整備を行う。

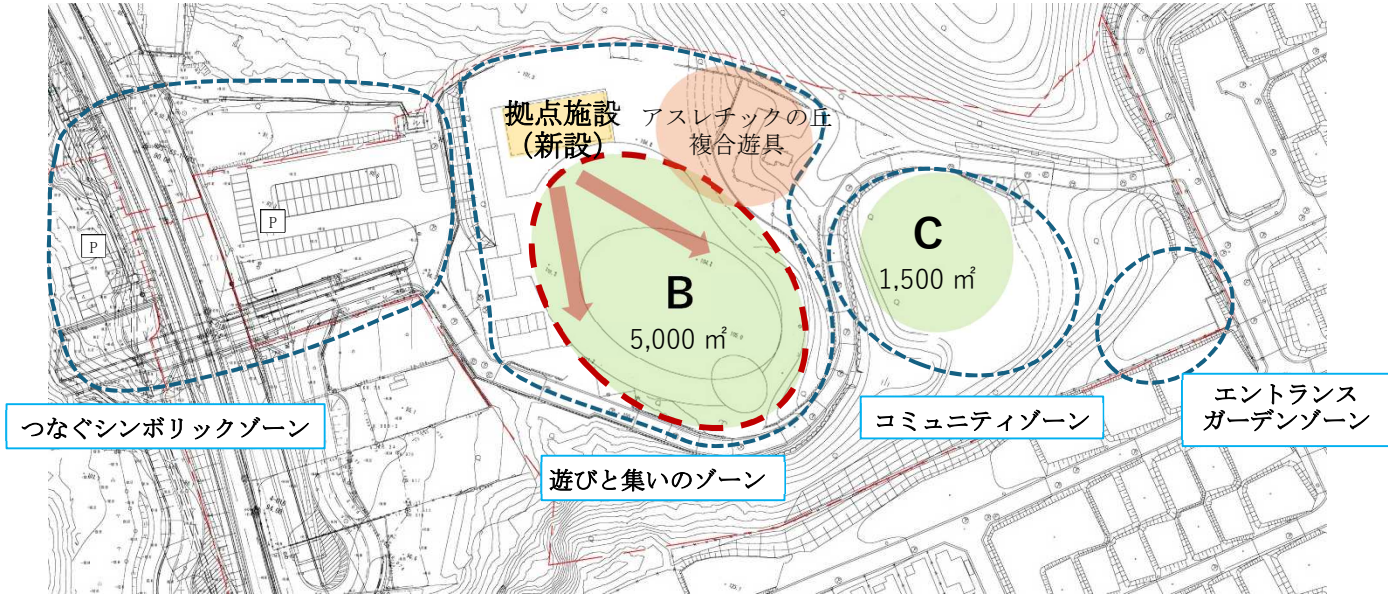
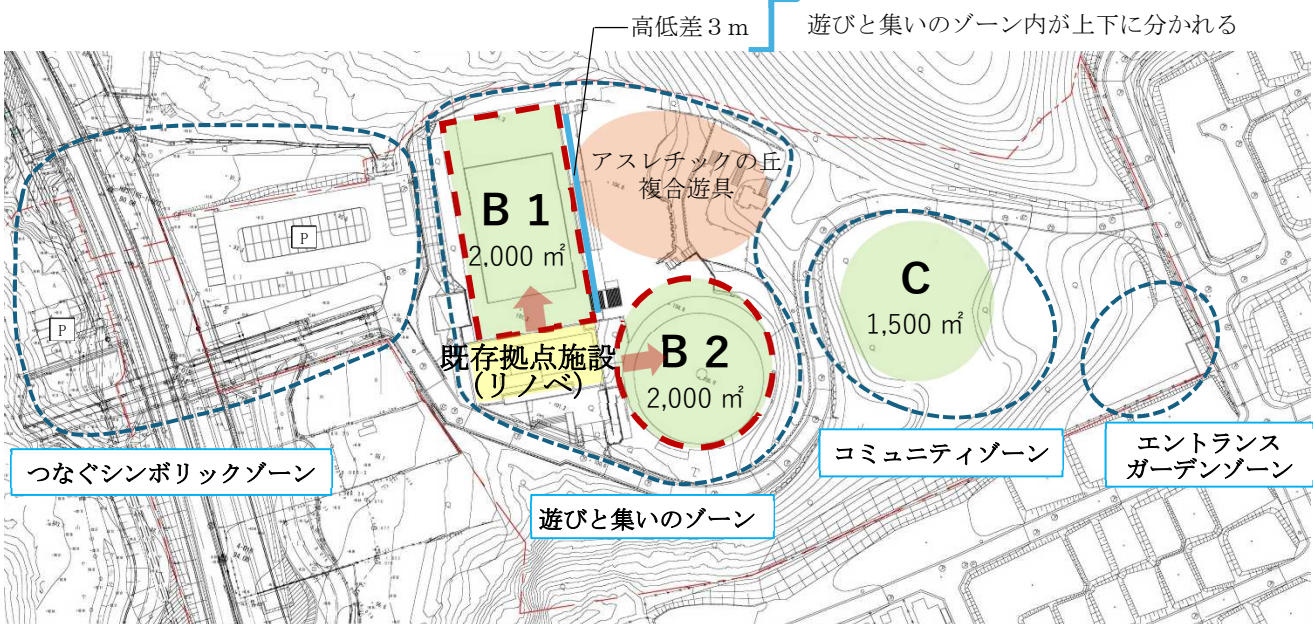
2. 整備コンセプト

(2) 断面図



2. 整備コンセプト

2. 6. 整備パターンの比較検討

第1案	遊びと集いのゾーン（B）＋コミュニティゾーン（C）＋拠点施設（新設） 【新設】拠点施設、広場、複合遊具など 【撤去】既存拠点施設、全てのプール跡、スライダー跡
	
特徴	拠点施設を新設、既存の地盤の高低差（3m）を解消し、一体的に利用できる広場へ ・バリアフリー化により見通しが良く、日常、災害時とも多世代の人が安心して利用可能。 ・イベントや災害時に車両などが進入しやすく広場を有効活用できる。 ・拠点施設新設のための建設費用が掛かる。
広場収容人数	広場：B（約5,000㎡）＋C（約1,500㎡） 計6,500㎡ ◆ゆったり B：350人 C：100人 計450人 ◆混雑時、災害時 B：2,500人 C：750人 計3,250人
バリアフリー	【遊びと集いのゾーン】で一体的な利用が可能で、園内を広くスムーズに移動ができる。
防災避難	避難者や緊急車両等が進入しやすく、避難行動や救援活動が実施しやすい。
維持管理	施設の多くを新設することで、当面の維持管理費は低くなる。
概算事業費	約31.5億円 概算調査設計費 4.1億円、概算工事費（東側エリア：21.7億円、西側エリア：5.7億円）
総合	■ゾーンの敷地の高低差（メリット、デメリット） ・拠点施設を新設し、広場を一体的に利用できる。 広場の活用度が上がり、安全な遊び場、バリアフリー、災害時の避難場所としての機能が向上 旧プール施設のイメージを刷新し、新しい総合公園として市民の需要に合った機能を提供 ■コスト ・新設拠点施設の建設費、地盤の高低差の解消のための整備費が必要
第2案	遊びと集いのゾーン（B1, B2）＋コミュニティゾーン（C）＋既存拠点施設（リノベーション） 【新設】広場、複合遊具など 【再活用】既存拠点施設（建物を活かしリノベーション） 【撤去】全てのプール跡、スライダー跡
	
特徴	既存拠点施設をリノベーション、既存の地盤の高低差（3m）を活かした広場へ ・既存拠点施設をリノベーションし、直接B1, B2広場へとつなげる。 ・リノベーション後の拠点施設から見守る子どものための2つに分かれた遊びのエリア。 ・見通しが悪い箇所がある。バリアフリーや災害時対応には使いにくさが生じる。
広場収容人数	広場：B1（約2,000㎡）＋B2（約2,000㎡）＋C（約1,500㎡） 計5,500㎡ ◆ゆったり B1：130人 B2：130人 C：100人 計360人 ◆混雑時、災害時 B1：1,000人 B2：1,000人 C：750人 計2,750人
バリアフリー	【遊びと集いのゾーン】内で地盤の高低差が生じ、スムーズに移動しづらい。
防災避難	避難や緊急車両等の進入がしづらく、避難スペース、防災活動スペースが狭い。
維持管理	既存拠点施設（耐用年数 残10年）の建て替えまでの期間の補修やメンテナンスなどの維持管理費が高くなる。
概算事業費	約21.5億円 概算調査設計費 2.8億円、概算工事費（東側エリア：13億円、西側エリア：5.7億円）
総合	■ゾーンの敷地の高低差（メリット、デメリット） ・上、下段の広場の用途や利用者層（子ども/幼児）を明確に分けられる。 ・ゾーン内の見通しの悪さ、バリアフリー、避難時の利用のしづらさ ■コスト ・地盤の高低差はそのままするため整備費を抑える事が可能 ・既存拠点施設のリノベーション費、建て替え時の建設費、建て替えまでのメンテナンス等の維持管理費が必要

※ 第2案については、別案として、流水プールを再活用する案（第2-1案）、スライダー跡を再活用する案（第2-2案）を検討しており、詳細については「3. 参考資料」に記載

※ 収容人数については、「ゆったりとしたイベント時」（15㎡/人）、「混雑時のイベント時」（2㎡/人）、「災害避難時」（2㎡/人）にて算定

※ 「概算事業費」は、基本構想段階での検討案の比較のために、調査設計費、工事費（直接工事費、共通費）を現時点で想定される項目で試算、合計したものである。

2. 整備コンセプト

2. 7. 基本構想図

(1) 基本構想図（東側エリア）

このイメージ図は、「2. 6. 整備パターンの比較検討」の第1案を展開したものである。



2. 整備コンセプト

(2) 基本構想図（西側エリア）



2. 整備コンセプト

(3) 基本構想図（鳥瞰イメージ）



2. 整備コンセプト

(4) 基本構想図（利用イメージ）



整備パターンの比較検討

第2案	遊びと集いのゾーン（B 1, B 2）＋コミュニティゾーン（C）＋既存拠点施設（リノベ）		
	【再活用】既存拠点施設など		
	【撤 去】全てのプール跡、スライダー跡		
第2-1案	◇広場：遊びと集いのゾーン（B 1, B 3）＋コミュニティゾーン（C） ◇リノベーション：既存拠点施設、流水プール跡 ◇撤去：既存プール跡（5 0 mプール、滝プール、スライダープール）、スライダー鉄骨部 ◇新設：アスレチックの丘（複合遊具）		第2-2案